

# トビウオ通信 (R2 第9号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和2年夏の漁況を振り返って》

今号は島根県の夏の漁業として代表されるばいかご漁業、あなごかご漁業、しいら漬け漁業、とびうお漁について、今漁期の漁況を振り返ってみます。なお、平年値は過去5年平均を用いています。

### ばいかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚金額 平年並み

石見地域のばいかご漁業は小型底びき網漁業の休漁期(6~8月)に、日御碕沖から浜田沖の水深200m前後の海域で操業されています。

今期のばいかご漁業における総漁獲量は69トン、総水揚金額は3,456万円で、漁獲量、水揚金額ともに平年とほぼ同様でした。漁獲の主体であるエッチュウバイ(地方名:白バイ)の漁獲量は59トン、水揚金額は2,961万円でした。

図1にエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移を示しました。1隻当たり漁獲量は20トン、水揚金額は987万円で、漁獲量、水揚金額ともに平年とほぼ同様でした。

1隻当たりの漁獲量、水揚金額ともに前漁期に比べて減少しましたが、平成24年以降の1隻当たりの漁獲量、水揚金額ともに高位安定しているといえます。

操業隻数の減少による漁獲圧の低下や平成28年に確認された大きな資源の加入により、現在の石見地域におけるエッチュウバイの資源は高水準にあると考えられます。

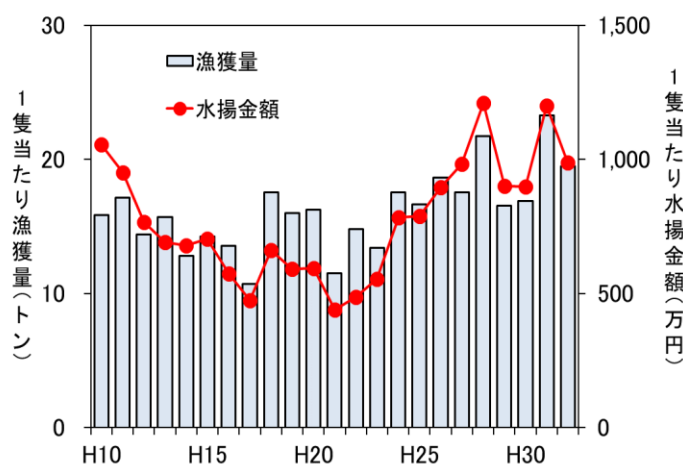


図1 石見地域ばいかご漁業におけるエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

### あなごかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚金額 平年を上回る

島根県はアナゴ類の漁獲量が全国第1位(令和元年農林水産統計)であり、その多くは底びき網漁業によって漁獲され、次いであなごかご漁業で漁獲されます。あなごかご漁業はアナゴの習性を利用して、アナゴの活動が活発になる夜間に餌を入れた漁具を設置して漁獲します。本県では、主に小型底びき網漁業の休漁期(6~8月)に石見地域で行なわれます。

今期の石見地域におけるアナゴ類の水揚げ状況は、総漁獲量が25トン、総水揚金額は2,322万円で、漁獲量は平年の9割、水揚金額は平年の7割でした。1隻当たりの漁獲量は8トン、1隻当たりの水揚金額は774万円で、漁獲量は平年の1.6倍、水揚金額は1.4倍となりました(図2)。

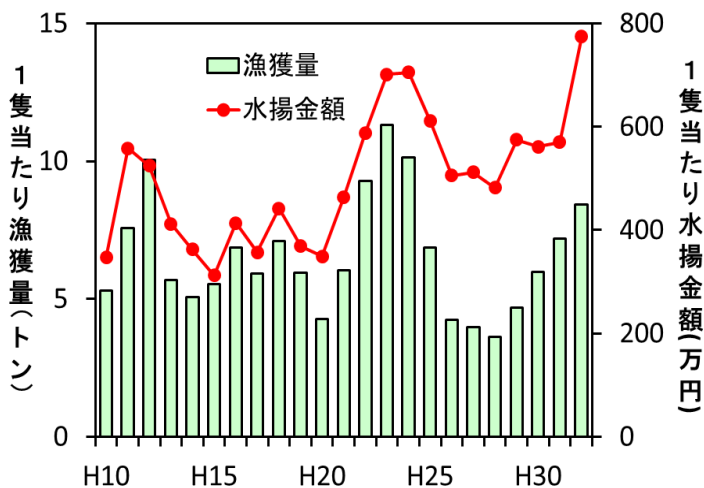


図2 石見地域のあなごかご漁業の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

## しいら漬け漁業 1 隻当たり漁獲量・金額 平年を下回る

シイラ等の回遊魚は物陰に寄り添ったり、集まる習性があります。この習性を利用した漁法がしいら漬け漁業です。漬木（つけぎ）と呼ぶ竹の筏を海面に浮かべ、筏の影に集まった魚を網で漁獲するまき網の一種です。現在は、隠岐地域、石見地域で夏季～秋季にかけて行なわれており、小型底びき網漁業の休漁期に操業を行なう石見地域がその中心となっています。今期（6～10月）の石見地域における水揚げ状況は、総漁獲量が144トン、総水揚金額は3,087万円でした。1隻当たりの漁獲量は36トン、水揚金額は772万円で、漁獲量・水揚金額ともに平年の7割でした（図3）。

魚種毎の漁獲動向をみるとシイラの1隻当たりの漁獲量は年変動が大きく、多い年では60トンを超えています。今期の1隻当たりの漁獲量は29トンで平年の7割でした。

一方、ヒラマサの1隻当たりの漁獲量は平成14年に37トンの漁獲があった以降、令和元年を除いて数トン程度で推移しています。今期の1隻当たりの漁獲量は6.5トンで平年の7割でした（図4）。

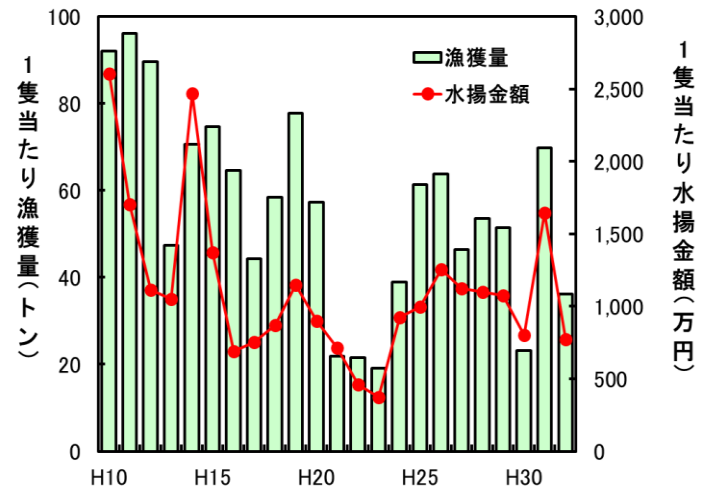


図3 石見地域のしいら漬け漁業の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

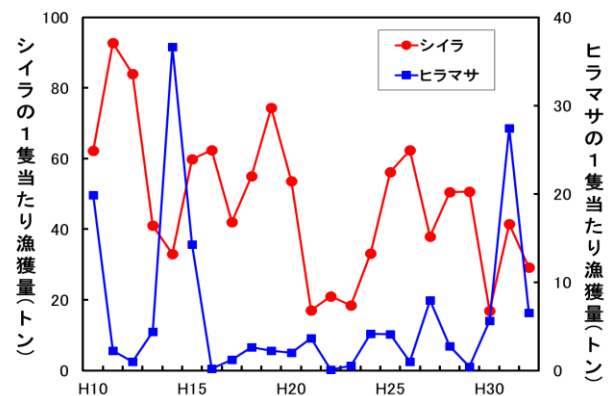


図4 シイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移

## とびうお類 漁獲量・水揚金額 平年並み

トビウオ類は、冬の間は南方で生活し、初夏になると産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。本県沖合には5月から7月頃に来遊し、刺網、定置網、船びき網、まき網などの様々な漁法で漁獲されます。本県で漁獲されるトビウオ類は、主にツクシトビウオ（地方名：角アゴ、角トビ、大目）とホソトビウオ（地方名：丸アゴ、丸トビ、小目）の2種類です。トビウオ類は県下全域で漁獲されますが、トビウオ類の総漁獲量の6割を占める漁港での水揚げ状況は、漁獲量が346トン、水揚金額が4,673万円で、漁獲量は平年並み、水揚金額は平年の8割となりました（図5）。また地区別では、出雲地域が217トンで平年並み、石見地域が83トンで平年の8割、隠岐地域が46トンで平年並みの水揚げとなりました。

主な漁業種類別の漁獲量は、定置網が283トン、とびうおまき網が36トン、刺網が15トン、船びき網が6トンでした。また、魚種別の漁獲量は、ホソトビウオが257トン、ツクシトビウオが89トンで、ホソトビウオが多く漁獲されていました。

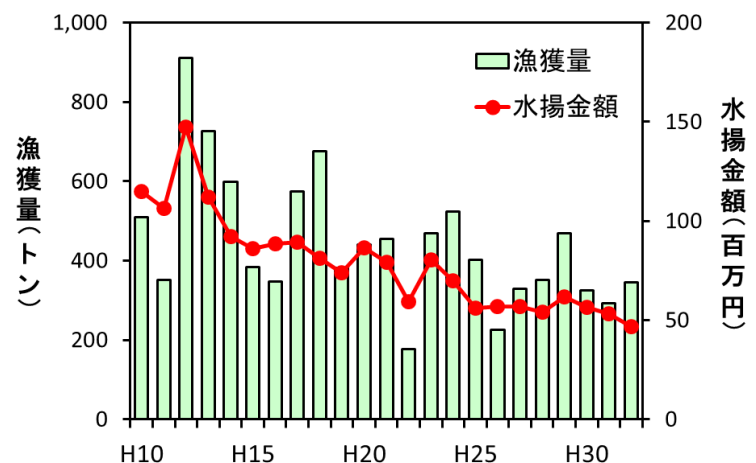


図5 トビウオ類の漁獲量と水揚金額の推移（5～8月集計）

※トビウオ類の漁獲量の6割を占める地区：出雲部は美保関、島根町、御津、恵曇、大社、石見部は久手、和江、五十猛、仁万、浜田、益田、隠岐は西郷、浦郷